

7地域候補牛出そろう

延べ66頭 北諸県代表は3頭

てっぺんへ 宮崎牛

22和牛オリンピック

全国和牛能力共進会（全共、10月）鹿児島大会に向け、県内7地域で最後となる北諸県地域（都城市、三股町）の代表牛決定検査（1次選考）は9日、都城市の都城地域家畜市場であった。3頭が県代表牛決定検査（最終選考）に進出。体形の美しさなどで競う「種牛の部」の候補は7地域で延べ66頭となった。枝肉を評価する「肉牛の部」の候補とともに、8月の最終選考で県代表が決まる。（21面に関連記事）

都城市は2020年の肉用牛生産額が市町村別で全国トップの「牛どろろ」。

3頭が最終選考に進んだ北諸県地域の代表牛決定検査
＝9日午前、都城市の都城地域家畜市場



前回宮城大会では肉牛の部で出品牛が最高賞の内閣総理大臣賞に輝いたが、種牛の部では近年出場がない。当日審査された延べ15頭のうち、選考を通過した同

市下長飯町の新穂地平さん（23）は「最終選考突破はたやすくはないが、家族や技術員の支援に報いるためにも全力を尽くす」と誓っていた。

新設された特別区「高校及び農業大学の部」には都城農業高が2頭を出品し、1頭が最終選考に残った。7地域での1次選考を通過しては、通過者の約6割が40代以下となるなど、若手の活躍が光った。県畜産振興課は「全共の目的の一つに担い手育成があり、若い世代の活躍は生産基盤強化につながる」と話した。

肉牛の部は、7月1～8日に巡回調査を実施し、県内20戸の肥育農家が飼育している候補牛80頭を絞り込む。

両部門とも、選考を突破した牛は8月2、6日に小林市の小林地域家畜市場である最終選考に進み、種牛14頭、肉牛7頭、特別区1頭が県代表となる。これに

20日	▶ 県家畜改良事業団で1区の代表を決定
7月1～8日	▶ 肉牛の部の県内20農家を巡回調査
8月2日	▶ 6～8区の代表11頭が決定
6日	▶ 2～5区、特別区の代表11頭が決定
10月上旬	▶ 「チーム宮崎」の出発式
6日	▶ 全共鹿児島大会が開幕
8日	▶ 1区、特別区の結果発表
9日	▶ 2～8区の結果発表
10日	▶ 名誉賞などの発表、閉幕

全共鹿児島大会スケジュール

県家畜改良事業団が管理する若雄1頭を加えた計23頭が、全共の舞台に立つ。

北諸県地域の代表牛と生産者は次の通り。

（那須友紀）

【2区・若雌（14、17カ月未満）】いば26365（新穂地平・都城市）

【3区・若雌（17、20カ月未満）】すずちゃん1（増元伸治・都城市）

【特別区・高校及び農業大学の部】あすか（都城農業高・都城）
（敬称略）